

受験番号

2026年度入試

神戸国際中学校 A―II選考

国語

(2026年1月17日実施、国語と算数あわせて50分、50点満点)

(注意)

- 1 解答用紙と問題冊子の両方に必ず受験番号を記入してください。
- 2 全ての問題に解答してください。
- 3 解答は全て解答用紙に記入してください。記入方法を誤ると得点にはならないので、十分に注意してください。
- 4 試験終了後、解答用紙と問題冊子の両方を提出してください。

□ 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。解答に字数の指定のある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。（本文に一部表記を改めたところがあります。）

私は本を読むという行為が男女の出会いに似ているような気がしてなりません。数多くの中からある本を選ぶ、あるいは、ある本と偶然に出会う、そして、その本から深い※感銘かんめいを受ける、やがてその本が※座右の書となり、その人の生涯に決定的な影響を持つようになる……そうした過程を考えてみると、なんと男女の出会いそっくりではありませんか。彼らは互いに相手を選びます。あるいは、偶然に知り合います。そして、互いに理解し合うためにつき合うでしょう。相手から深い感銘を受けたなら、その感銘は（I）と呼ばれます。（A）、相手がいとも座右にいてほしいと思

うようになれば、ふたりは結婚し、生涯の※伴侶はんりよとなるでしょう。書物も全く同様です。だからこそ、ゆっくり読むべきなのです。急いだらあなたは自分の生き方に深い影響をもたらすような一冊を、永久に手にすることはできないでありません。

では、こんなたくさんの本の中から、いったいどうしてそのような一冊にめぐりあうことができるのでしょうか。残念なことに、それについては有効な策はないと言っべきでしょう。①その点でも、読書は男女の出会いに似ております。※めいめいが、自分の価値判断に基づいて選ぶ以外にないのです。なぜなら、ある書物が、ある人に決定的な影響を与えたとしても、その書物

が、べつの人には何の感銘も与えない、ということとは、※ざらにあるからです。ある男性もしくは女性が、ある女性もしくは男性に想おもいを寄せたとしても、その相手が、べつの人にとっては何の興味もおこさせない、ということが、ざらにあるように。

ですから、自分の生き方を変えてしまうほどの影響を持つような一冊にめぐりあえるかどうかは、まさしく、運と言うほかないのです。

※ヘンリー・ミラーはこう言っています。

「感銘を持って書かれ、読む人を感銘させる書物というものは、いつの世にもある。だが、一生のあいだに、五本の指で数えるくらいそうした本に出会った人は、まことに幸福な人といふべきである」（わが読書）

一冊でさえ a ヨウイヨウイにめぐりあえないのに、五冊の本に出会えたなら、その人はまさしく※幸運のきわみと言っべきであります。

では、②読書とは、偶然に支配された行為なのでしょうか。ある意味ではそうです。ふと手にした書物が、その一冊だったということもあるでしょうし、たまたま友人にすすめられた書物が、その人の生涯の伴侶となる場合もあります。新聞の広告で、あるいは、どこかにのついていた書評から b キョウウキョウウをひかれて、そのような一冊に出会うこともありましょう。偶然といえ、すべて偶然ですし、運というなら、すべてが運とも考えられます。

（B）、たとえそうであっても、もし自分が書物に何かを求めるのでなかったなら、つまり、自分の生き方にかかわるたいせつな問題を書物の中に発見したいという切実な気持ちがないのだったら、偶然も逃げてしま

しようし、運も開けてこないでしょう。この意味で、読書とは、やはり自発的な、主体的な、そして努力を要する行為といふべきです。どのようにして一冊の本に出会うかは、その人の切実な※希求、人生をよりよく生きたいという希求にかかっているからです。

こんなにもたくさんの中から、自分にとつての貴重な一冊を選ぶことは、たしかに※至難なことです。しかし、それが困難であればあるほど、その一冊にめぐりあえた喜びは大きいはずです。ですから、私はこう言いたいのです。③恋人を捜すように本をお捜しなさい。けっして手近なもので間に合わせないように。そのための、どんな※骨折れもいとわないように。そして、これは、と思った一冊、一冊をゆつくりとお読みなさい。急いで読んだなら、せつかくその一冊にめぐりあえたのに、あなたはそれに気づかず、読みすごしてしまうでしょうから。

※エミール・ファゲは、こうも言っています。

「読書において、※性急は※怠惰の別名にほかならない」

そうなんだと思います。急いで読もうとすることは、いいかげんに読み散らそうということであり、それは、結局はなまけ者ということになるのです。

ヘンリー・ミラーも同じように読者に忠告しています。

「できるだけ多くではなく、できるだけ少なく読みたまえ」

情報化時代と言われ、書物もまた「情報」と考えられるようになった※④に、④こうした読書は時代に逆行するように思われるかもしれませんが、速読術、(C)、どれほどcヨウリヨウよく、短時間で読みこなすこと

ができるかという技術こそが現代の読書だと考える人も多いでしょう。しかし、たとえ書物が「情報」だとしても、それはあくまで、よりよく生きるための情報と考えねばなりません。そのような情報を手に入れるということとは、とうてい急いで※なまじうることではないのです。なぜなら、そのためには、※アーノルド・ベネットが言っているように、「読書についてやただけの時間を、考えるためについやす必要がある」からです。

忙しいということは、この際、言いわけになりません。それどころか忙しい生活であればあるほど、ファゲのことばは深い意味を持つてくるのです。これはと思う本をゆつくり読むなら、とうぜん、他のくだらない本を読む時間になくなってしまおうでしょうから。

「人びとは世界の動きに後れずについてゆくために新聞をむさぼり読んだり、ラジオに耳を※ニカワづけにしたり(時には両方をいっしょにやったり)しているのだと主張するかも知れぬが、それはまったくの妄想である。本当は、これら気の毒な人たちは、働いていないとき、忙しくないとき、一種の空恐ろしいような、胸の苦しくなるような※空虚を、心のなかに自覚するのだ」

(D)、みんなは何でもやたらに読もうとするのだ、とヘンリー・ミラーは言っています。※酷評にすぎると思われるかもしれませんが、私は自分自身を顧みて、この言いぶんにも多分のdシンリがふくまれていることを認めざるをえません。

そうなのです。だからこそ、本はゆつくりと読まなければならない。考え

ることから逃げまわるために読むのではなく、考えるために読むというのなら、どうして速読が可能でしょうか。

時間がない、ですって？そんなことはありません。時間はじゆうぶんにあるのです。くだらないものまで読むとするから時間がなくなってしまうのです。※シヨー・ペンハウエルもこう言っているではありませんか。

「⑤悪書を読まないことが、良書を読むための条件である」と。

(森本 哲郎 『ことばへの旅』)

※感銘…忘れられないぐらい心の中に感じ入ること。

※座右の書…いつも身の回りに置いて、日常の教訓としている言葉が書いて

ある本。

※伴侶…一緒に連れ立っていく者。

※めいめい…それぞれ。ひとりひとり。

※さらにある…どこにでもあつて、めずらしくない。

※ヘンリー・ミラー…アメリカの小説家。

※幸運のきわみ…これ以上になく運が良いこと。

※希求…強く願ひ求めること。

※至難…きわめてむずかしいこと。

※骨折…苦勞すること。

※エミール・ファゲ…フランスの批評家。

※性急…あわただしく先を急ぐこと。

※怠惰…怠けていて、だらしないこと。

※こんにち…このごろ、現在。

※なしうる…物事を最後まですることができぬ

※アーノルド・ベネット…イギリスの小説家・劇作家・評論家。

※ニカワづけ…ニカワという動物の骨・皮や腸で煮て出した液体で作った接

着剤でものをくっつけること。ここでは、その例え。

※空虚…むなしさ。からっぽで何も無いこと。

※酷評…ひどい評価。

※シヨー・ペンハウエル…ドイツの哲学者。

問1 || a d のカタカナを漢字に直さない。

問2 (A) (B) (C) (D) に入る適当なものを次のア～オからそれぞれ選

び、記号で答えなさい。

ア もし イ すなわち ウ だから エ けれども オ さて

問3 ①②「その点」とありますが、どのような点のことですか。本文中の

ことばを使って五十字以内で答えなさい。

問4 (I)に入る適当なものを次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 悪 イ 恐怖 ウ 善 エ 恋 オ 別離

問5 ②「読書とは、偶然に支配された行為なのでしょいか。ある意味ではそうです」とありますが、「読書」が「偶然に支配された行為」と言える例として、適当でないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 書店で何気なく手に取った宇宙の不思議を紹介する本が、自分が宇宙飛行士を目指すきっかけとなった。

イ 友人から仕方なく頼まれて預かっていた本を読んでもみると、自分がいつも持ち続ける一冊となった。

ウ 夏休みの宿題の読書感想文に、決められた課題図書ではなく、違う本で提出すると受け付けられなかった。

エ 先生がすすめていた本が書店で目に入ったので買ってみると、自分の進路先を決める材料となった。

問6 ③「恋人を捜すように本をお捜しなさい」とありますが、筆者はどうして、このように言うのですか。その理由を五十字以内で答えなさい。

問7 ④「こうした読書」とは、どのような読書ですか。その説明として適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア じっくり選んで、長い時間をかけて読む読書。

イ 短い時間の中で、好きな本だけを読む読書。

ウ 時間のことを考えず、何でも読む読書。

エ 都合の良い時間に、選んだ本を読む読書。

問8 ⑤「悪書を読まないことが、良書を読むための条件である」とありますが、どういうことですか。その説明として適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分自身が読んで楽しいと思う本だけを読むのではなく、教養になる学問的な本を読むべきであるということ。

イ くだらない本ばかり読んでいると、どの本が良い本かということを理解する力が失われてしまうということ。

ウ 考えるためにゆつくりと本を読む時間をつくるには、自分がくだらないと思う本は読んでほらないということ。

エ 考えることから逃げるのではなく、本は考えながら読むことが大事であり、つまらない本も選別して読むべきだということ。

二 次の①～④の（ ）には、「あ」で始まって「く」で終わる言葉が入ります。それぞれの横にある（ ）の説明の言葉となるように、ひらがなで答えなさい。

①（ ）（ ）働いているが、暮らしては楽にはならない。

（ ）気持ちがゆとりがなく、せわしなく物事を行う様子（ ）

②（ ）（ ）の雨で、遠足は延期になった。

（ ）期待や目的に合わないで具合が悪い様子（ ）

③ あれほど練習したのに、試合は（ ）（ ）負けてしまった。

（ ）予想したよりも簡単で、もの足りない様子（ ）

④ 遅刻しそうなので、食事もそこそこに（ ）（ ）出て行った。

（ ）せわしく落ち着かない様子（ ）